

CSR 推進 NGO ネットワーク
2011 年度活動の方向性
< 活動内容案、参加団体基準、会費等 > (案)

2011 年 8 月 19 日

1. 「CSR 推進 NGO ネットワーク」とは

「CSR 推進 NGO ネットワーク」は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題解決を目的として、お互いの特性を認識し、資源や能力等を持ち寄り、対等な立場で協力して活動することを目的に、情報交換・調査研究・啓発・提言活動等を行うために 2008 年 4 月に結成された。

詳細は、資料「2010 年度活動実績」「趣意書」「運用規定」を参照されたい。

2. これまでの活動

初年度の 2008 年度は、NGO メンバーのみ 24 団体のネットワークとして活動し、企業連携のための NGO の能力アップを目的として、学習会や事例調査を通して、CSR の基礎や最新動向、連携相手となる企業の思考を学んだ。

活動 2 年目となった 2009 年度は、21NGO に加え、新たに企業 8 社が参加し、連携の当事者によるネットワークとして活動を行ってきた。「企業に対してのミレニアム開発目標理解促進に向けた提案書」と「地球規模の課題解決に向けた企業と国際協力 NGO の連携ガイドライン」という成果を残すことができた

3 年目の 2010 年度は、27NGO と 17 社がメンバーとなり、特に「『BOP ビジネス』を補足する名称と定義」、「環境と貧困問題のつながりとその重要性を伝えるメッセージ」について議論を深め、「連携ガイドラインへ ver.2」<http://www.janic.org/more/companyngo/netnow/>として収録した。

3. 2011 年度からの 3 ヶ年活動計画について

1) 目的

持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題解決にむけ、NGO・企業、双方の特性を認識し、資源や能力等を持ち寄り、対等な立場で協力して活動する機会を推進すること。

2) 目標

「NGO と企業の連携の量を増やす」、「NGO と企業の連携の質を高める」

3) 活動重点分野(案)

連携事例の共有と創造

連携促進のためのコンサルテーション

地方の NGO や中小企業の巻き込み

効果的な提言活動(対企業、企業ネットワーク、消費者等)

本ネットワークのブランディング活動

国際協力 NGO の企業連携実態調査

4. 2011 年度活動内容

	時期	活動主体	テーマ	内容
準備会合	5月	NGOメンバー	NGOメンバー準備会合	活動概要説明、 コアメンバー決め
コアメンバー会合	5月～3月	コアメンバー	方針協議・意思決定	<ul style="list-style-type: none"> 活動方針の決定 活動プログラムの策定・修正 スケジュールリング、優先順位決め
定例会	第1回 (6/22)	全メンバー	本年度活動計画策定のためのワールドカフェ	<ul style="list-style-type: none"> MDGsの達成に向けた日本や世界の取り組み状況 東日本大震災の経験を、NGOと企業の連携で取り組むMDGs達成にどう生かせるか？ 本年度やってみたいこと
	第2回 (8/24)		社内を巻き込むCSRのコツ～CSR担当者+NGO経営層、社員の巻き込み～	CSR担当者とNGOが連携して、企業の社員、経営層をどのように国際協力活動やMDGs達成に巻き込んでいけるかの戦略づくり
	第3回 (10月)		メンバー間連携マッチング大会	メンバーが連携を必要としている案件のプレゼンを行い、連携のきっかけをつくる。可能であれば失敗を経て成功した連携事例の共有等も行う。
	第4回 (12月)		官民連携ネットワークとの対話 (一般公開予定)	外務省「MDGs官民連携ネットワーク」、JICA「BOPビジネス連携促進」、経産省「BOPビジネス支援センター」の取り組み発表と、意見交換
	第5回 (1月)		提言活動戦略作り計画	本ネットワークで行う提言の相手、内容のプレス本ネットワークで行う提言活動のスタンス、取り扱う 이슈、提言先等の特定
	第6回 (3月)		今年度の活動振り返り	今年度活動の振り返り、来年度の活動骨子について
分科会	随時	有志メンバー	本ネットワークのブランディング活動	名称、キャッチコピー、ロゴ、ウェブサイト作成検討、ウェブ上での会員限定サービスの検討
	随時	事務局+	コンサルテーション	コンサルテーション活動の検討、連携ガイドラ

		有志メンバー	ン	イン活用(プレゼンする為の勉強会開催等) ウェブサイト上でメンバーへの情報提供の検討
調査研究	7月~12月	事務局・コアメンバー	「国際協力 NGO の企業連携実態調査」	アンケート内容策定、アンケート送付、回答推奨、アンケート集計、分析、まとめ
シンポジウム	11月	NGO・企業メンバー	第1回シンポジウム(広島開催)	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力・NGO の役割・MDG に関するプレゼンテーション 連携ガイドライン ver.2 の紹介 事例発表(中国地方で活躍する NGO と企業にフォーカス) ディスカッション
	2月		第2回シンポジウム(東京開催)	<ul style="list-style-type: none"> 基調講演 「国際協力 NGO の企業連携実態調査」結果発表 経営層の巻き込み(トップ対談)、MDGs 大賞発表、マルチセクターアプローチ等 事例発表(メンバーを中心に) ディスカッション

5. ネットワーク参加基準

本ネットワーク参加メンバーの条件として、下記の基準を設ける。

<NGOメンバー参加基準>

社会的信頼性があることを前提とし、JANIC 正会員、あるいは、それに準ずる NGO 団体とする。尚、JANIC 正会員でない場合は、JANIC の会員規定(添付資料参照)を基準に参加の可否をコアメンバーが判断する。申し込み方法、詳細必要提出資料は「参加手続きご案内」ファイルを参照のこと

<企業メンバー参加基準>

社会的信頼性があることを前提とし、CSR を積極的に推進し、MDGs 達成に寄与するもしくはその意思のある企業であること。参加の可否に疑義がある場合はコアメンバーがそれを判断する。

尚、登録期間は登録の申し出が承認された日からその年度末(3月31日)までとし、運営規定に基づく退会手続きがとられない限り次の年度も登録が更新されるものとする。

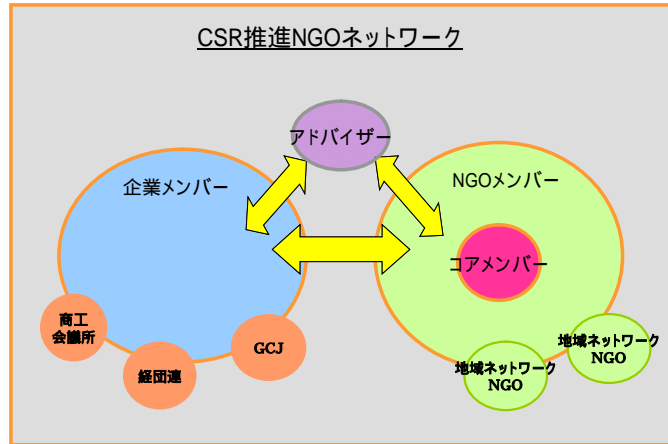
6. コアメンバー制度

本ネットワークの活動を円滑に行うために、参加組織の中からコアメンバーとしてリーダーを1名、サブリーダーを3名設ける。コアメンバーは本ネットワークの活動の企画・立案、活動スケジュールの調整、JANIC との連絡、参加組織内連絡などを行う。本年度のコアメンバーは下記(10.5)の通り。

7. アドバイザー制度

「CSR 推進 NGO ネットワーク」の活動成果を最大化するために、CSR や SR 全般に広い知見があり、且つ、企業活動と NGO など市民活動にも深い理解のある研究者・有識者にアドバイザーとして加わっていただく。本年度のアドバイザーは下記10.4)の通り。

8. 活動イメージ図



9. 会費、活動予算

- ・ コア会合と定例会の開催にかかる活動費用(会場費、資料代、事務局経費等)は参加メンバー全員が相応の負担をし合うことを原則とする。会費額は下記表の通り。
- ・ 「調査研究」活動と「シンポジウム」開催にかかる費用は、別途外務省「NGO 研究会」の枠組みを活用する(年間予算 450 万円程度)。

会費制度 および 予定収入内訳

	種類	年会費	想定団体数	計
NGO 側ネットワーク	JANIC 正会員	¥5,000	25	¥125,000
	非正会員	¥15,000	6	¥90,000
企業側ネットワーク	JANIC 企業会員	¥30,000	15	¥450,000
	非会員	¥60,000	4	¥240,000
アドバイザー		¥5,000	3	¥15,000
合計				¥920,000

仮メンバー含む

10. 参加メンバー 本年度新規参加組織

1) NGO メンバー一覧(アイウエオ順)(31 団体)

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| (特活) アジア日本相互交流センター(ICAN) | (財) 国際労働財団 |
| (特活) アジア砒素ネットワーク | (特活) シェア = 国際保健協力市民の会 |
| (特活) ADRA Japan | (特活) JEN |
| (特活) アフリカ日本協議会 | JANNET (障害分野 NGO 連絡会) |
| エイズ孤児支援 NGO・PLAS | (特活) シャプラニール = 市民による海外協力の会 |
| (特活) ACE | (公社) シャンティ国際ボランティア会 |
| (特活) NGO 福岡ネットワーク | (特活) 日本国際ボランティアセンター |
| (公財) オイスカ | (特活) 日本リザルツ |
| (特活) オックスファム・ジャパン | (特活) パレスチナ子どものキャンペーン |
| (財) 家族計画国際協力財団(ジョイセフ) | (特活) ハンガー・フリー・ワールド |
| (特活) グッドネーバーズ・ジャパン | (特活) ピープルズ・ホープ・ジャパン |
| (公財) ケア・インターナショナル ジャパン | (公財) プラン・ジャパン |
| (公財) 結核予防会 | (特活) ブリッジ エーシア ジャパン |
| (公財) 国際開発救援財団 | (特活) 横浜 NGO 連絡会 |
| (特活) 国際協力 NGO・IV - JAPAN | (特活) ワールド・ビジョン・ジャパン |
| (特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) | |

2) 企業メンバー一覧(アイウエオ順)(18 社)

- | | |
|----------------|----------------|
| アクセンチュア株式会社 | 武田薬品工業株式会社 |
| 旭硝子株式会社 | 株式会社電通 |
| 味の素株式会社 | 東京海上日動火災保険株式会社 |
| オムロン株式会社 | 株式会社博報堂 |
| オリンパス株式会社 | パナソニック株式会社 |
| 花王株式会社 | ファイザー株式会社 |
| 株式会社資生堂 | 富士通株式会社 |
| ソニー株式会社 | 株式会社ブリヂストン |
| 株式会社大和証券グループ本社 | 株式会社リコー |

3) アドバイザー (3 名)

- 赤羽 真紀子氏(CSR Asia 日本代表)
- 黒田 かをり氏(CSO ネットワーク 共同事業責任者)
- 新谷 大輔氏(株式会社三井物産戦略研究所 研究員)

4) コアメンバー (4名)

リーダー:

長 宏行氏 ((公財)オイスカ 国際協力部 海外プロジェクト担当部長)

サブリーダー:

高木 美代子氏 (公財)ケア・インターナショナル ジャパン マーケティング部長

門田 瑠衣子氏 エイズ孤児支援 NGO・PLAS 代表理事

渡邊 清孝氏 (特活)ハンガー・フリー・ワールド 事務局長

以上

添付資料

正会員の要件 (JANIC 会員規定より抜粋)

(1) 開発、人権、環境、平和、政策提言において、国際協力(そのための国内協力を含む)および地球市民学習・開発教育などに継続して関わる団体、またはこれらの団体の連携促進を目的としたネットワークNGOであること。

(2) 市民(個人又はグループ)により設立され、かつ民主的に運営されている市民組織で、本部を日本に置くこと。ただし、海外に本部を置く団体であっても、日本国内に拠点を持ち日本社会において自律的に活動している団体についてはこの限りでない。

(3) 原則として、決算額が300万円以上であること。しかし、人権・環境・平和・政策提言・開発教育の場合は100万円以上、ネットワーク型の場合は50万円以上であること。かつ3分の1以上の財源が自己資金(会費、寄付金、事業収入)であること。ただしこの基準達成に努力していることが認められる場合は、この限りでない。

(4) 民主的な意思決定機関(理事会、総会、運営委員会など)が置かれ、会則などに従って運営されていること。

(5) 団体の役員名簿および活動報告書および決算書が公表されていること。

(6) 2年以上および2会計年度以上の活動実績があること。

(7) 連絡可能な事務局体制がとられていること。

参考資料 URL

・2010 年度活動実績

http://www.janic.org/mt/img/csr_1/4.CSRnet%20recruitment2011.pdf

・趣意書

http://www.janic.org/mt/img/csr_1/5.CSRnet%20recruitment2011.pdf

・運用規定

http://www.janic.org/mt/img/csr_1/6.CSRnet%20recruitment2011.pdf